

教員養成課程における
「学校安全」科目の内容等について
～本学の実践から～

戸 田 芳 雄

東京女子体育大学教授

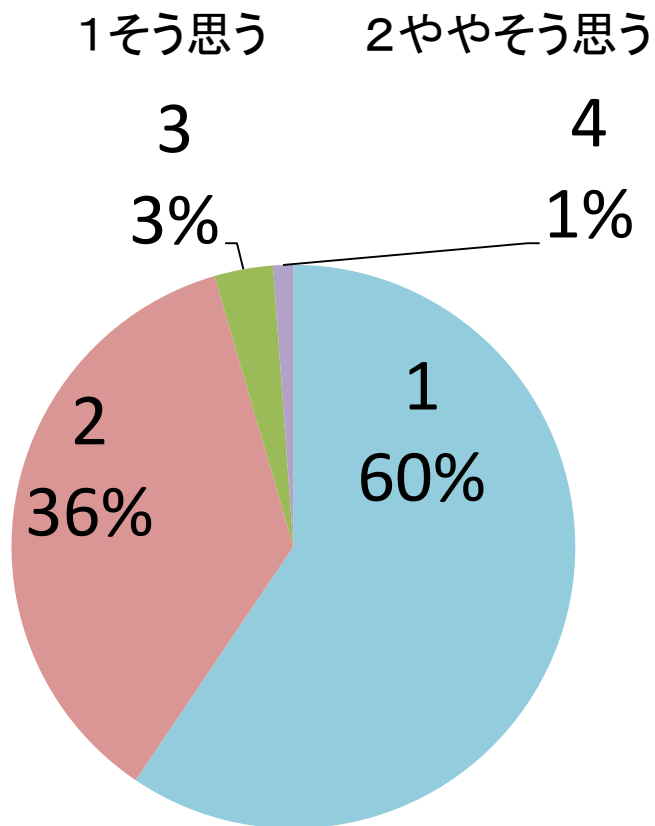
1、教員養成課程における科目 「安全」設定のニーズについて

アンケート調査結果(抄)

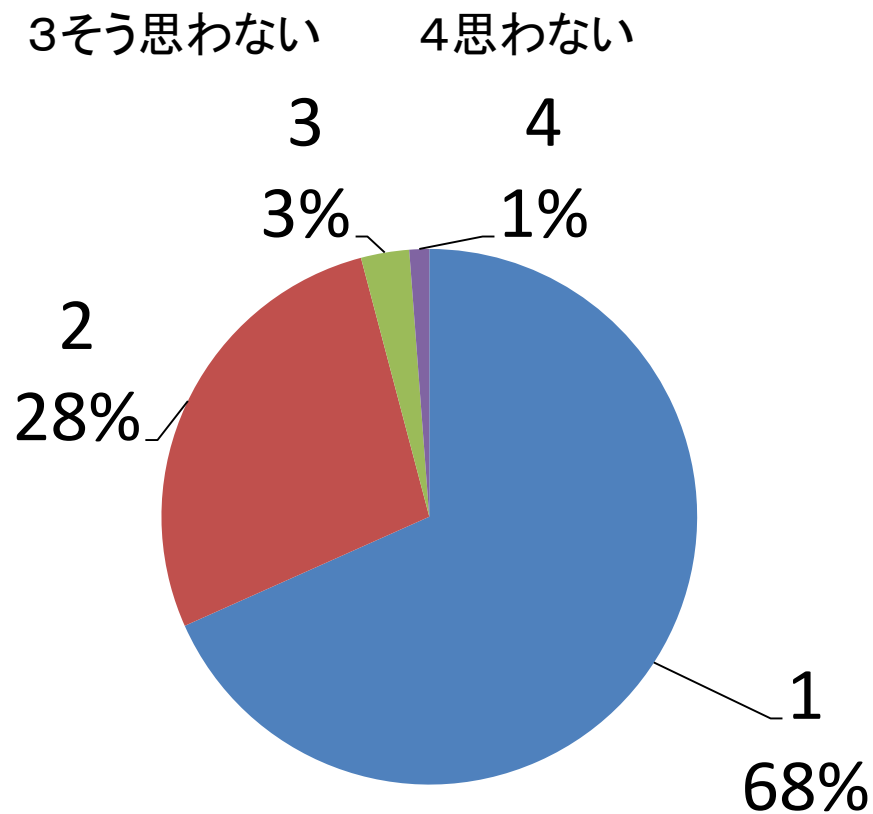
24年6月実施 戸田芳雄他

Q14 教員養成課程での安全教育が必要

教員



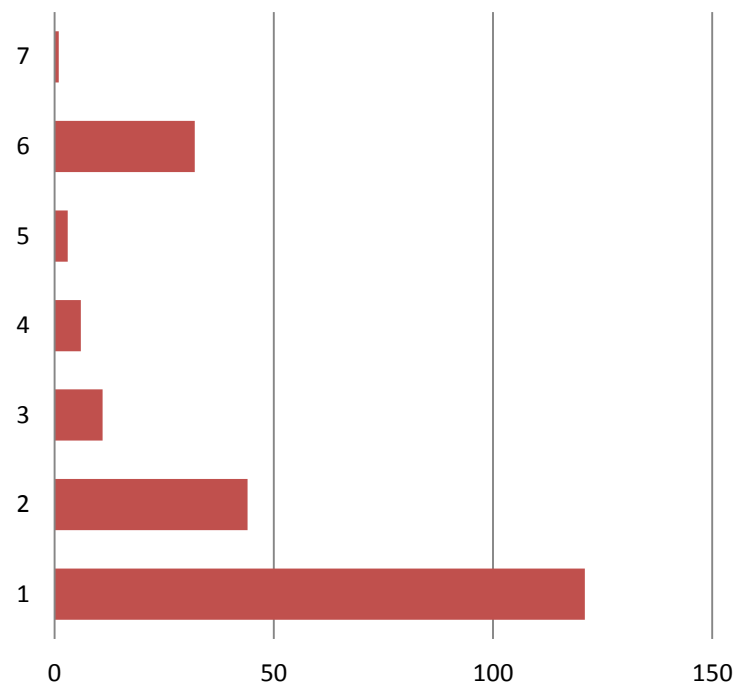
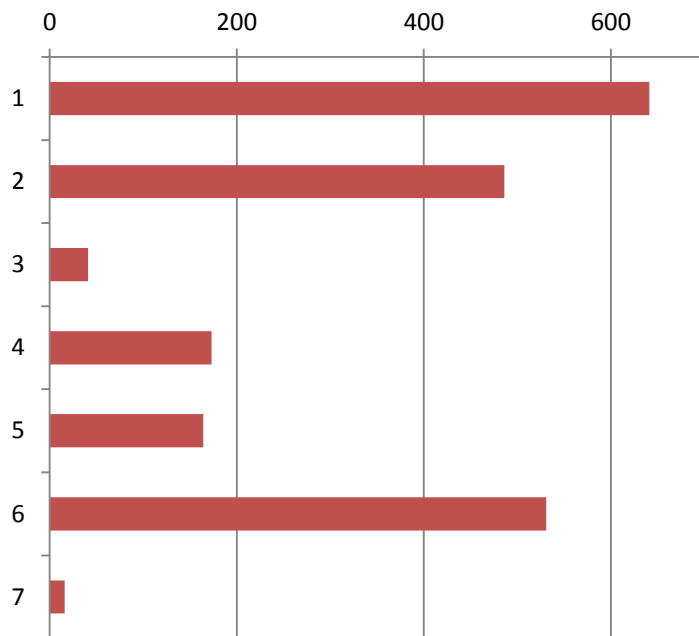
学生



Q15 必要な理由

教員

学生



1. 安全教育は学校教育の重要な内容だから
2. 子どもの事件・事故や災害が多いから
3. 自分がけがや被害に遭ったことがあるから
4. 自分の学校で事故や事件を経験したことがあるから
5. 事件や事故の対応に困ったことがあるから

6. 教員の職務として重要だから
7. その他

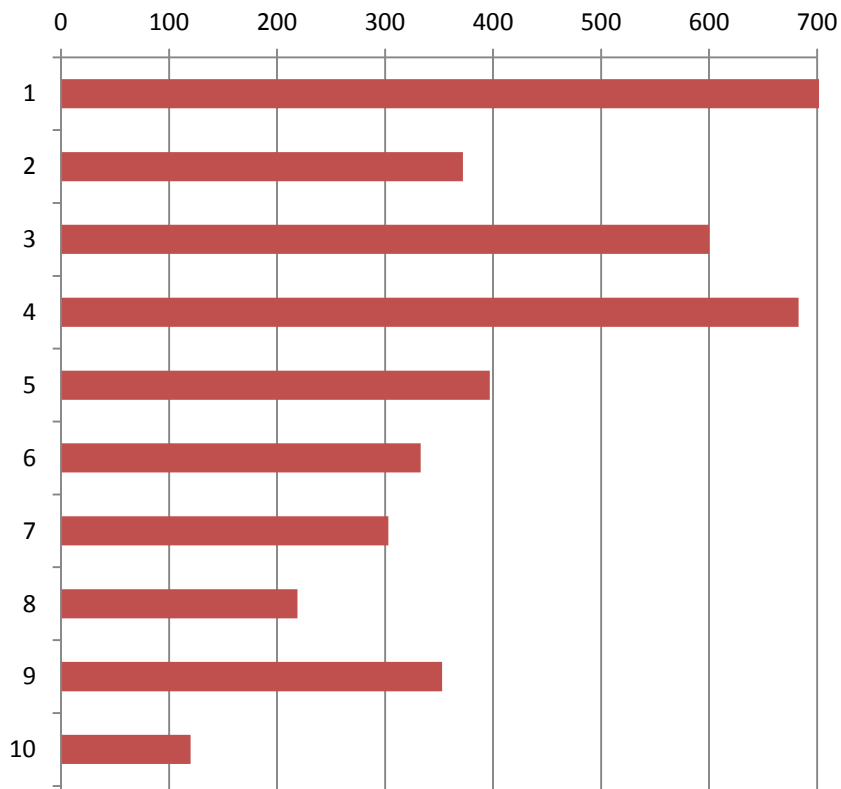
教員養成課程の学生及び現職教員の 安全教育の必要性(ニーズ)について

教員，学生のほとんどが，**教員養成課程における安全教育が必要である**としており，安全教育が学校教育の重要な内容であり，教員の職務として重要であることが認識されているものと考ええる。

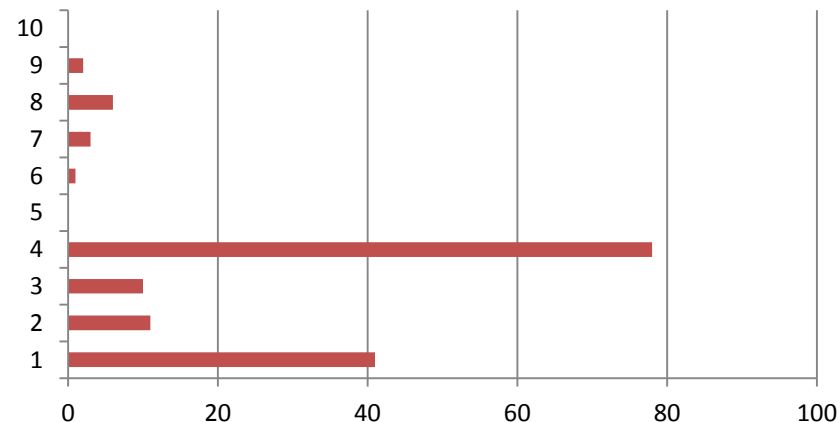
これは，東日本大震災など昨今の深刻な自然災害の発生や子どもの事件・事故の多発等が，危機感を増している現れであると考えられる。

必要な安全教育の内容

教員



学生



1. 学校(園)生活や教育活動での安全
2. 誘拐など犯罪被害の防止
3. 交通安全
4. 地震などの防災
5. 感染症の防止
6. 薬物乱用防止
7. 健康や食に関する内容
8. 学校安全計画の作成
9. 避難訓練の方法
10. 自転車等の実習

教員養成課程における 必要な安全教育の内容について

教員の調査結果で示されたように、「**学校(園)生活や教育活動での安全**」「**地震などの防災**」「**交通安全**」「**誘拐など犯罪被害の防止**」「**避難訓練の方法**」などの従来の安全教育の内容に加え、危機管理の視点から「**感染症の防止**」なども重要な安全教育・危機管理の内容となるものと考えられる。

2 本学での実践

調査結果から、あるいは、昨今の学校や子どもを取り巻く状況を鑑みると、教員及び教員を目指す者には、「安全と危機管理」に関する科目の設置が強く求められていると言える。

そのようなことから、本学では、平成22年4月から「学校保健Ⅱ」の内容として指導を始め、平成24年度から「**学校とスポーツの安全**」と名称を変更し、選択科目として設定している。(平成28年度は、教員免許状取得希望者ほぼ全員が履修)

「学校とスポーツの安全」

科目の内容

授業の概要

東日本大震災などの自然災害や多発する学校管理下の児童生徒等の事故災害、交通事故や犯罪被害などから、安全教育及び危機管理に関する理解は、教師及び国民にとって必須な事項である。

本講義では、学校保健安全法及び学習指導要領の理解を基礎に、学校での安全教育及び危機管理について、教師として必要な知識理解を図るため、学校生活・教育活動等での事故防止、犯罪被害の防止、防災教育、交通安全教育など幅広い内容を具体的に取り上げる。その中で、レポート作成や発表などを取り入れ、学校安全・危機管理に関する意識の向上や教師に必要な言語力、コミュニケーション能力などを育成するよう配慮する。

授業の到達目標及びテーマ

学校安全及び危機管理の基礎的な事項について理解するとともに、学校・子どもの安全と危機管理に関する意識を高め、教師として必要な資質や能力を身に付けることができるようにする。

主な内容

- (総説) ① 学校安全の定義, 学校保健安全法, 学習指導要領、学校における安全教育・危機管理の重要性等
② 学校安全の領域と構造(安全教育, 安全管理, 組織活動)及び学校安全計画の作成

(各論)・・・現状等、リスクや原因・要因、対処の仕方、学習指導との関わり

自然災害による傷害の防止

- ① 地震・津波からの安全及び緊急地震速報を活用した避難訓練等
- ② 気象災害等からの安全
- ③ 原子力災害からの安全

学校生活、スポーツ、教育活動等による傷害の防止

- ① 学校生活・教育活動での事故防止、熱中症の予防等
- ② 水泳での事故防止及び教育活動中の突然死予防
- ③ 歯と口(口腔)の外傷の防止

- 交通安全** ① 道路交通法の改正及び自転車の安全な利用
② 交通事故による傷害の防止と危険予測学習
③ 交通事故の責任と補償

犯罪被害による傷害の防止(防犯教育)

- ① 危機管理マニュアル(危険等発生時対処要領)の作成と避難訓練
- ② 地域安全マップづくり

労働災害と安全(ハインリッヒの法則ほか)

スポーツ振興センターの災害共済給付制度、学校安全支援事業等

各回の授業シラバス

- 第1回 学校安全の定義, 学校保健安全法, 学習指導要領、学校における安全教育・危機管理の重要性等
- 第2回 学校安全の領域と構造(安全教育, 安全管理, 組織活動)及び学校安全計画の作成
- 第3回 **自然災害による傷害の防止** ① 地震・津波からの安全及び緊急地震速報を活用した避難訓練等
- 第4回 **自然災害による傷害の防止** ② 気象災害等からの安全
- 第5回 **自然災害による傷害の防止** ③ 原子力災害からの安全
- 第6回 **学校生活、スポーツ、教育活動等による傷害の防止**
① 熱中症の予防, 学校生活の事故防止
- 第7回 **学校生活、スポーツ・教育活動等による傷害の防止**
② 水泳での事故防止及び教育活動中の突然死予防
- 第8回 **学校生活、スポーツ・教育活動等による傷害の防止**
③ 歯と口(口腔(こうくう))の外傷の防止他
- 第9回 スポーツ・教育活動等とスポーツ振興センターの災害共済給付、学校安全支援等
- 第10回 労働災害と安全(ハインリッヒの法則ほか)
- 第11回 **交通安全**① 道路交通法の改正及び自転車の安全な利用
- 第12回 **交通安全**② 交通事故による傷害の防止と危険予測学習
- 第13回 **交通安全**③ 交通事故の責任と補償
- 第14回 **犯罪被害による傷害の防止(防犯教育)**
① 危機管理マニュアル(危険等発生時対処要領)の作成と避難訓練
- 第15回 **犯罪被害による傷害の防止(防犯教育)** 及び講義全体のまとめ
②地域安全マップづくり

講義の基本的な進め方

(導入)

健康観察・出席確認
前時の課題の発表とグループ内の相互評価

* 評価の観点

- A よく調べてあり、分かりやすく新しい発見があった。
- B よく調べてあり、自分の感想や意見が具体的に書かれている。
- C まあまあ調べてあり、感想や意見が書かれている。
- D 調査が不十分で、記入が半分以下であり、努力を要する。
- E 課題をやってこない。(空欄にして次時に回す)

* 教師役の人が、評価を担当し、理由も含めて口頭でみんなに示し、記録。
温かく、公正な評価。コメントを添えてください。

(展開)

PPや教科書、印刷資料などを元に講義

* PP資料は、抜粋して配付する。

(まとめ)

関連する内容等の視聴覚教材の視聴等

* 展開やまとめで、文部科学省の資料等も積極的に活用する

3 教員養成課程における「安全・危機管理」に関する科目の枠組等について

対象 幼小中高校の教員を目指す者全て

内容 学校保健安全法及び学習指導要領の理解
生活安全、交通安全、災害安全の基礎
(できれば、健康に関する危機管理も)

指導者 当面は、校長OBや指導主事経験者等
(早急な安全教育研究者の育成が必要)

資料 文部科学省等作成資料等の提供
指導者の研究や実践の情報共有
(インターネットからの入手のみでは、難しい)

発表の機会をいただきましてありがとうございました。
ございました。

ご清聴、ありがとうございました。